

廃棄物槽幅：約162m

搬入道路（8m幅）

標高：156.05m

盛上：約22m

廃棄物埋立：約23m

盛土埋立：約25m

湖埋立：約10m

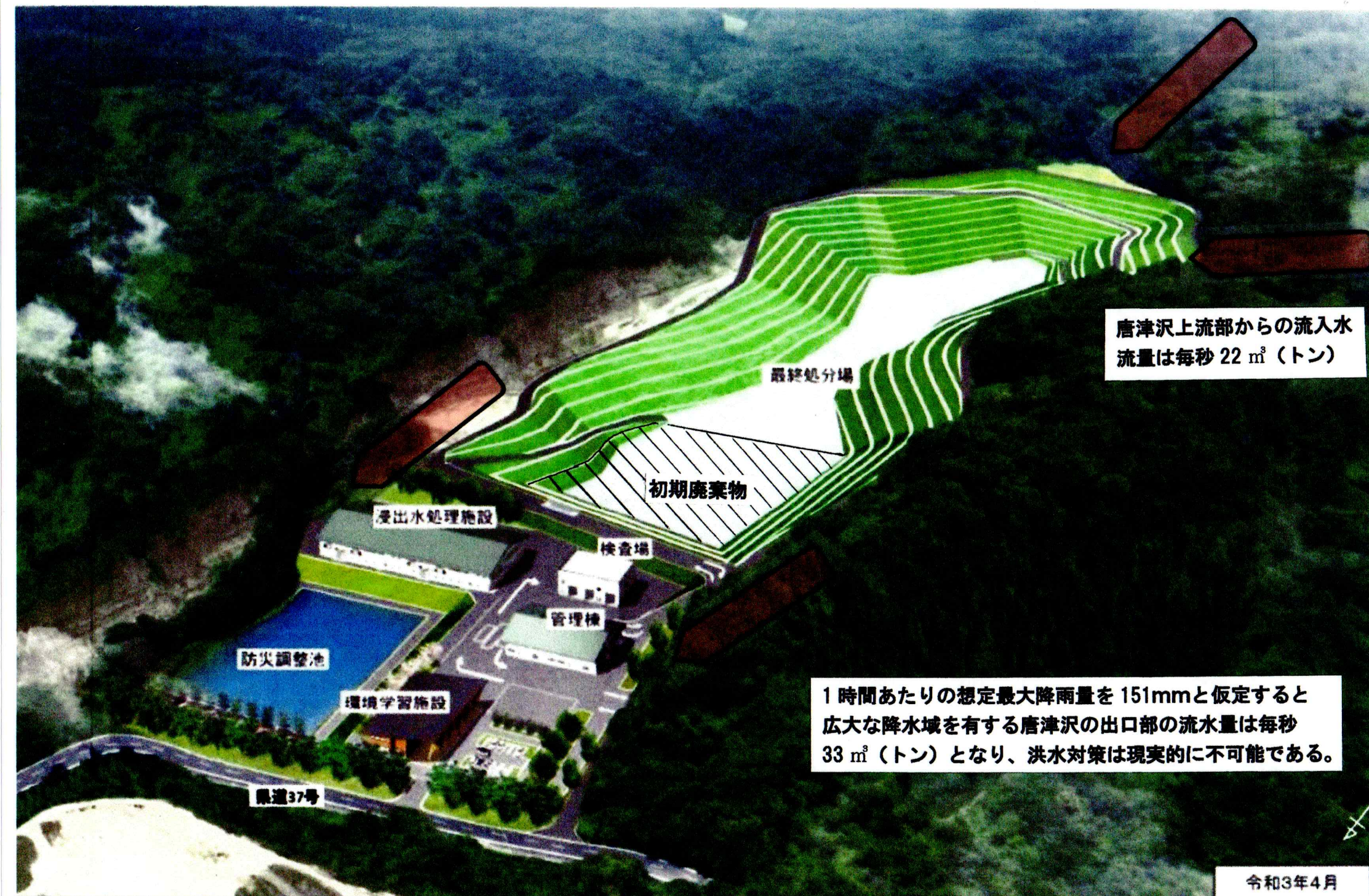
湖面標高：約110m

谷底標高：約100m

深い谷間の地下水が充満した盛土埋立地に廃棄物槽が建設される様子を
示します。高く盛上げたごみの山の景観は壮絶で恐ろしいことでしょう

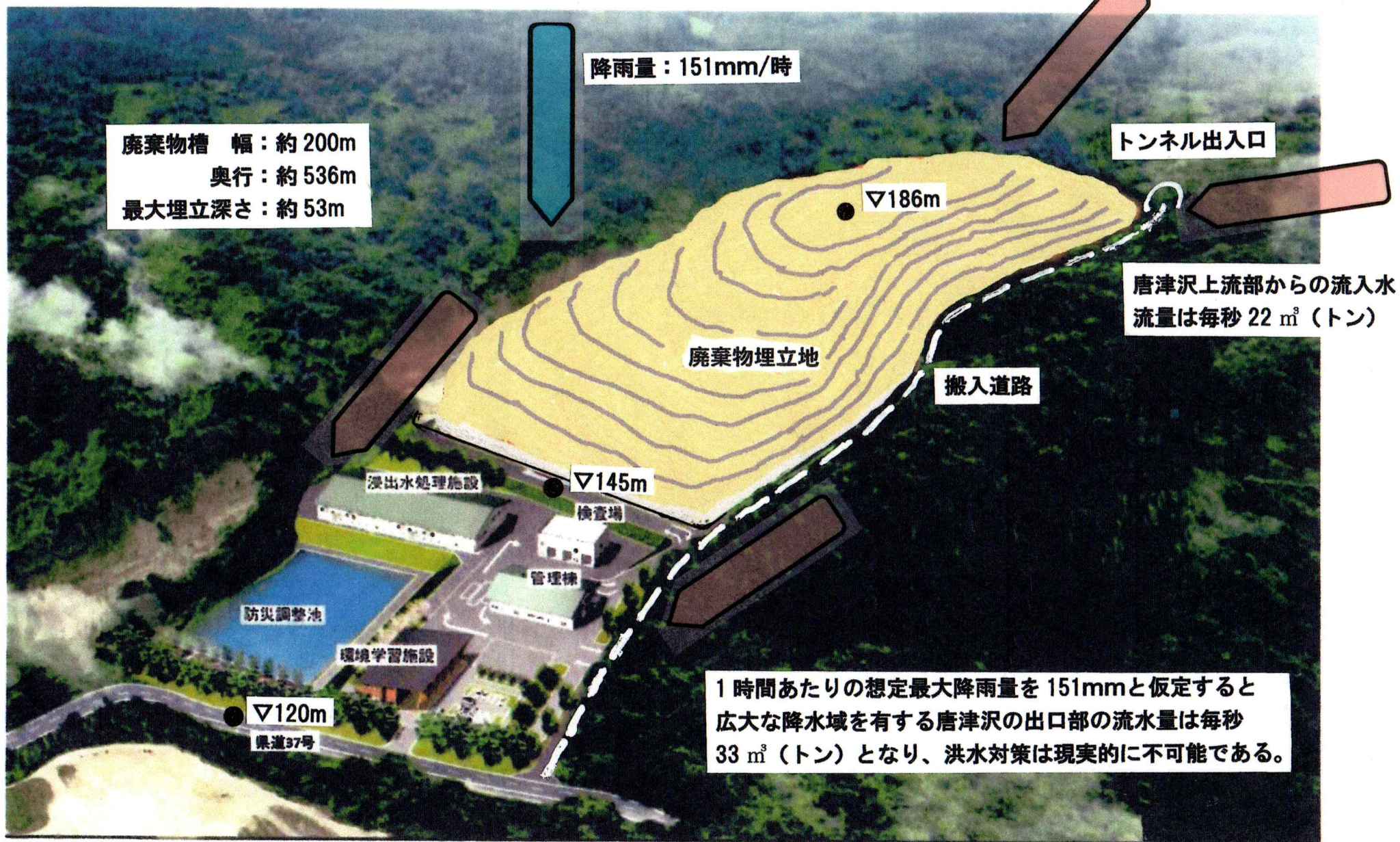
表流水流路

唐津沢の現風景と廃棄物槽の横断面(B-B 断面)概要



茨城県新産業廃棄物最終処分場施設配置イメージ図

埋立完了後の景観イメージ



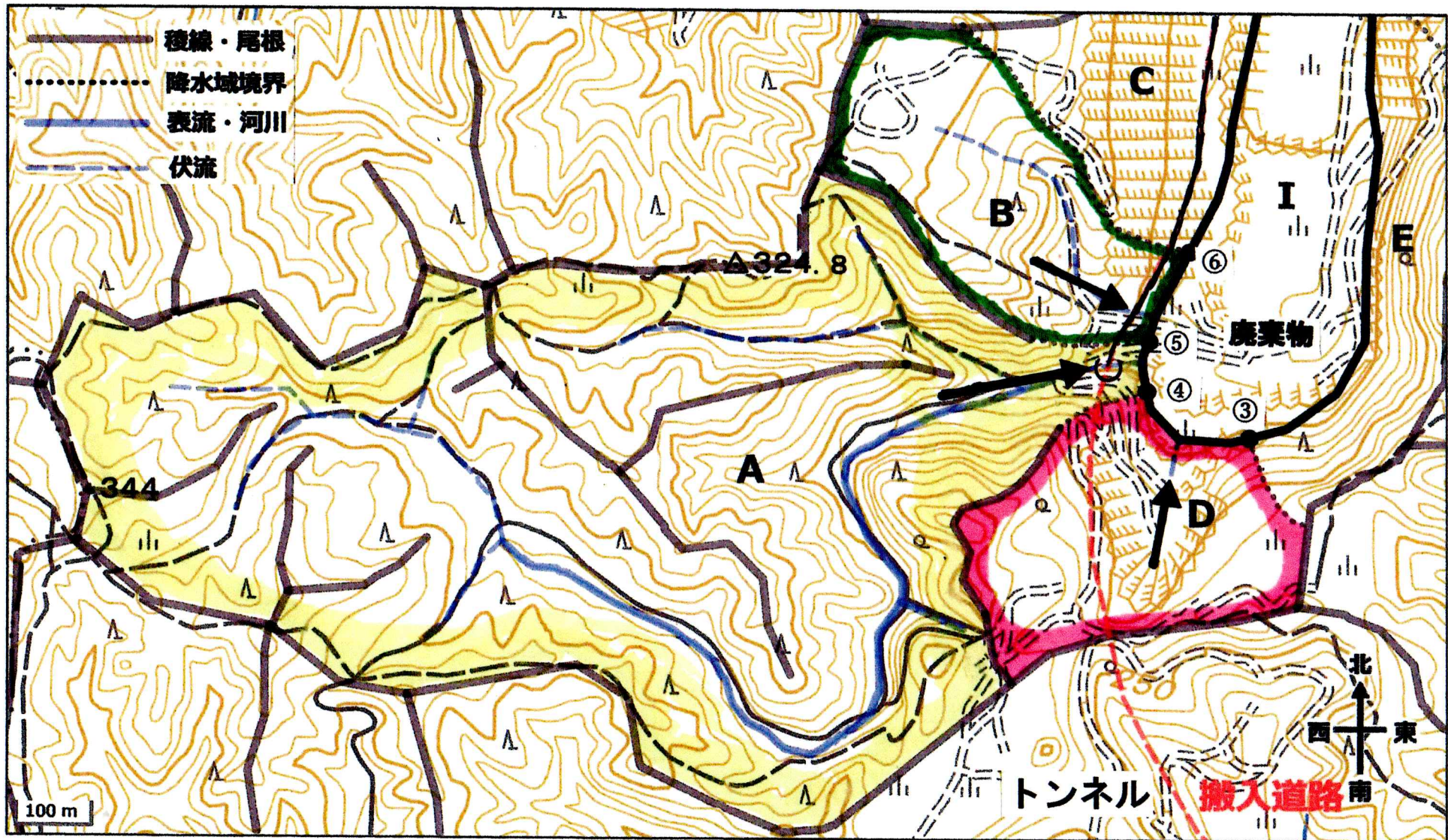
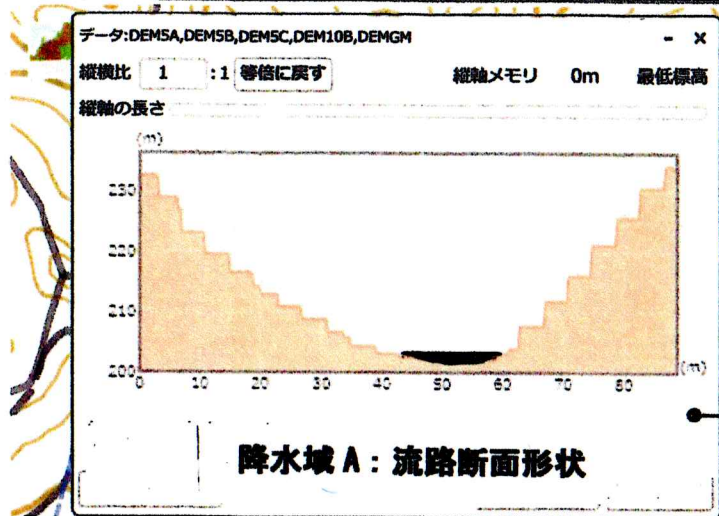


図 唐津沢上流部の降水域詳細

降水域面積 A: 644,700 m² B: 102,900 m²
 D: 101,000 m²
 上流部3降水域の合計面積: 848,600 m²

例： 鷺岳 / 金沢市木ノ新保町 / 35度0分0秒 135度0分0秒 / 35.00 135.00 / 54SUE83694920



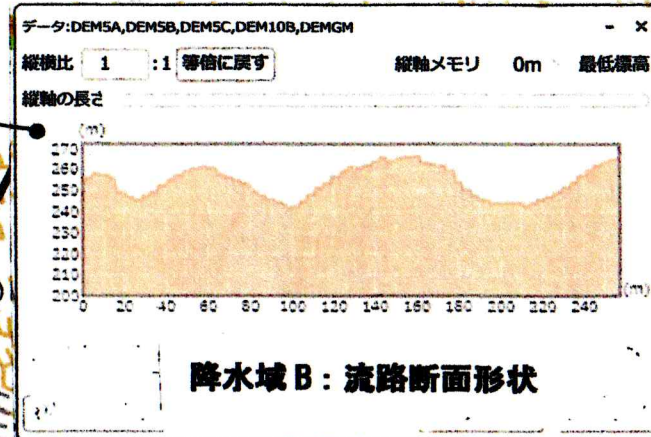
降水域 A から流出する流れの状況

流量 Q_a : 18.9 m^3/s 平均速度 v : 4.3 m/s

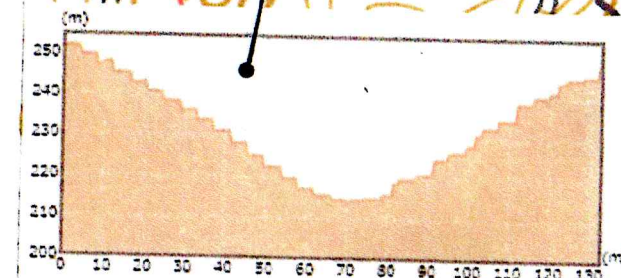
流路幅: 12m 流路最大深さ: 0.6m

流路断面積: 4.4 m^2 勾配: 0.063

降水域 A の出口幅④⑤間距離: 68m



流量 Q_b : 3.5 m^3/s



流量 Q_d : 3.4 $\mathbf{m}^3/\text{s}$

図 唐津沢上流部降水域の流路断面形状

降水域 D : 流路断面形状

表1 唐津沢各降水域の想定最大降水量および最大流出量

想定最大規模降雨				豪雨時最大流出量	
降水域	面積 m^2	降雨量 m^3/s	流出率	表示記号	流量 m^3/s
A	644,700	27.04	0.7	Qa	18.93
B	102,900	4.32	0.8	Qb	3.45
C	74,300	3.12	0.8	Qc	2.49
D	101,000	4.24	0.8	Qd	3.39
E	81,300	3.41	0.8	Qe	2.73
F	43,800	1.84	0.8	Qf	1.47
H	26,300	1.1	—	—	—
I	116,300	4.88	—	—	—
J	14,600	0.61	0.8	Qj	0.49
全降水域	1,205,200	50.6	—	—	32.9
	(1.21 km^2)				

* : 水防法の規定により、1時間あたりの最大降雨量を151mmと仮定した。

* : 降雨流出率は、森林の降水域を0.7、岩盤多く急な山林の降水域を0.8と仮定した。

* : 沢上流部降水域からの豪雨時流出量は22 m^3/s にもなり、洪水対策は極めて困難である。

表2 排水路の各代表位置における豪雨時最大流量および平均速度

代表位置	流量表示記号	流量 m^3/s	速度 m/s	深さ m
①	$Q1 = Qa + Qb + Qc + Qd$	28.2	12.4	0.57
②	$Q2 = Qe$	2.73	5.2	0.13
③	$Q3 = 0$	0	0	(最高地点)
④	$Q4 = Qd$	3.39	—	—
⑤	$Q5 = Qa + Qd$	22.3	11.5	0.49
⑥	$Q6 = Qa + Qb + Qd$	25.7	12	0.54

* : イメージ図から想定される廃棄物槽の周囲の通用車道を幅4mとして、豪雨時には、各降水域から流出される雨水の排水路を兼ねるものと仮定した。

* : 通用車道兼排水路は、幅4mで勾配0.077のアスファルト舗装（粗度係数0.013）とし、各流量についてマンニングの式を適用して、水流の平均速度と深さを概算した。

* : 速度10 m/s を超える激流では、土石や流木などの障害物により流れは飛散する。